

初心者のためのブルースギター講座 ②

フィンガーピッキングのスタイル

主に、ツーフィンガー（親指と人差し指）を使う方法と、スリーフィンガー（親指、中指、人差し指）を使う方法があります。古き偉大なブルースマンには、ツーフィンガースタイルの人も多いのですが、ここでは、スリーフィンガースタイルを中心に話を進めます。

ツーフィンガーは、スリーフィンガーをマスターしてからでも十分覚えられます。

スリーフィンガースタイルでは親指は、4～6弦、人差し指は2弦（3弦）、中指は1弦（2弦）を担当します。ギターを構えた時、人差し指、中指がそれぞれの弦に触っているように構える癖をつけましょう。

フィンガーピッキングのポイントは一にも二にも右手のフォームにかかっていると思います。

少しデフォルメしていますが、図1-1をよく見て正しいフォームを覚えて下さい。フィンガーピッキングの苦手な人は、総じて写真右（図1-1）のようなフォームになっている場合が多い様です。

図 1-1



○ 正しいフォーム



× 良くないフォーム

練習曲

キーはEです。人差し指、中指はメロディーを、親指はベースとリズムを担当します。

親指の動きは今後もほぼ共通ですので、しっかり練習しましょう。

左手の指使いはあまりこだわらなくて良いですが、1フレ-人差し指、2フレ-中指、3フレ-薬指を使って下さい。

図 1-2 ♪ = ♪

シャッフルとシンコペーション

黒人音楽であるブルースはアフタービートが基本です。

その1の練習曲は難しかったですか？

親指と人指し指(中指)のタイミングが同じだったのでそれほど苦労は無かったと思います。

今度は、シャッフルやシンコペーションを含んだものを練習してみましょう。

親指はその1と全く同じ四分音符のパターンです。

パターンで覚える。

一見複雑そうに見えるフレーズも、右手の指の動きと言う点ではいくつかのパターンの組合せに過ぎません。

例えば図 2-1 の「パターン3」は「パターン 2(タータ、タータ…)」と「パターン 1(ウンタ、ウンタ…)」の組合せで「タータ、ウンタ」という風にリズムをとります。

どうしても親指がつられて動いてしまうなら足でリズムをとりながら弾いてみましょう。

足の動きと親指のタイミングをあわせるようにすれば少しは弾き易いかも…。

図 2-1

図 2-1 ♩ = ♩♩

パターン1

パターン2

パターン3

パターン4

パターン5

パターン6

練習曲

その1の練習曲の発展型です。基本的な音使いは変わりませんが、裏でとるリズムを多用しています。音で聞くより実際に弾いてみると難しく感じると思いますが、メロディーとベースを分けて練習するのは初心者にはあまり効果的ではありません。

すべて図 2-1 のリズムパターンの応用ですので、分かりにくいところはフレーズごとに区切って練習しましょう。

10 小節目は指の動きがせわしくなります。ゆっくりしたテンポで練習しましょう。

どうしても出来なければその1の練習曲の 10 小節目(または 6 小節目)を使ってもかまいません。

覚えたフレーズを組み合わせて自分のスタイルを作っていくのもブルースの醍醐味です。

図 2-2

図 2-2 ♪ = ♪

The musical score for Figure 2-2 is presented in three systems, each with Treble (T), Alto (A), and Bass (B) staves. The first system begins with an E7 chord and a melody of eighth and quarter notes, while the bass line consists of eighth notes. The second system starts with an A7 chord and features a more intricate melody with triplets and sixteenth notes, accompanied by a bass line with some eighth notes. The third system begins with a B7 chord, continues the complex melody, and concludes with an E7 chord. The entire score is framed by an orange border.

コードを押さえる

ギターのコードというやつは非常に便利なものです。ブルースでは基本的に3つしかコードが出てこないので取りあえず丸覚えして演奏に取り入れてみましょう。

基本的なコードフォーム

図 3-1 にキー E で良く使うフォームを載せておきました。

同じコードでもポジションによってフォームはいくつもあります。

ギターを続けるなら、コードブックは一冊手元に置いておきたいものです。

図の通り押さえられなくても、音を出す弦さえ押さえられていれば特に支障はありませんが基本ですのでがんばってマスターして下さい。

Type2 のフォームは今回の練習曲では使いませんが、実際の曲の中では頻繁に出てきます。一応覚えておいて下さい。

図 3-1

	Type1 (ローコード)	Type2 (ハイコード)
E		
E7		
A7		
B7		

練習曲

すべてコードフォームを押さえたまま弾きます。EとE7の切替は実際の演奏上は2弦の開放弦→3フレの違いだけですので、いちいちコード表記はせずフレーズとして扱います。この2弦3フレはなるべく小指で押さえて下さい。

図 3-2 ♪ = ♪

ギターテクニックとまとめ

4つの定番テクニック

ハンマリング

弦を弾いた後から左手の指で弦をたたくようにして次の音を出します。連続する場合があります。タイミングの取り方が意外と難しい。

プリング

弦を弾いた後ひっかくように指を離して次の音を出します。もちろん次にくる音はあらかじめ押さえておきます。連続する場合や、ハンマリングとの組合せもあります。速いテンポの曲で特に便利なテクニック。

スライド

弦を弾いた後、指を次の音のところまで滑らせます。途中で音が途切れないように力を込めて滑らせましょう。どこからどこまでと指定する場合と、任意(適当)で始点(終点)だけ指定する場合があります。

ベンド(チョーキング)

弦を押し上げる(4、5、6弦の場合は引き下げる)ことで音程をかえるテクニック。
アコギでは弦のテンションが高いため不向きですが、クォーターチョーキング(半音の半音程度音程をあげる)はブルーノートをよりブルージーに表現するために必須です。

通常中指、薬指を使いますので、あいている指(人指し指、中指)を添えて補助するのが一般的です。いろいろなバリエーションがありますが、練習曲ではクォーターチョーキング(Q.C)のみを使っています

練習曲

図 4-5 ♪ = ♪

ブルースソロは、アルペジオ、ストローク、単音フレーズの複合技です。

左手はコードフォームを主体に崩しては戻るといった感じです。右手は大胆に！隣の弦に当たるぐらい大きく動かしましょう。

イントロ2小節。ウォーキングベース編で使ったターンアラウンドの応用です。4、3弦は親指で弾きます。

1. E7 のコードフォームをベースにしています。1、2弦の3フレはブルーノートです。Q.C を使うとよりブルージーに響きます。
2. E7 の Type2 フォームです(その3参照)。1弦は開放弦でも可。定番フレーズですから覚えておくと便利！
3. A7 の Type2 フォームです。2フレのバレーが難しいですが、とりあえず2弦の音が出れば OK!5フレはフォームを押さえたまま小指を伸ばして押さえます。右手は人指し指でかきあげるように大胆に弾きましょう。
4. 単音のフレージング。人指し指が3フレにくるポジションです。これぐらい弾ければ単音弾きは十分！
5. ローコードのアルペジオを主体にしています。僕の手癖です。ハンマリングのタイミングが難しいので注意。
6. これもエンディングの定番パターン。1拍目はしっかりスタッカートしましょう。3弦は親指で弾きます。最後のコードは E7 のオープンハイコード。
1、2、6弦が鳴ってもかまいません。ブルースでは良く使うので覚えておきましょう。